

東由利村報

No. 48 35・10・15

発行所 秋田県東由利村役場
印刷所 株式会社 本間印刷所

紙 面 案 内

1 面 農業振興特別指導市町村・産米売渡状況

2 面 道路施策中間報告

3 面 草地改良事業計画 滞納のない村へ

4 面 寄生虫検査の報告 けいじばん

近く予想されている衆院総選挙を目あてにした事前運動の防止について、この十日県選管、県警本部、検察庁の三者協議会を開き

公明選挙の実現へ

県民へ大要次のような声明を発表した。

三者協議会で声明を発表

①公正にして明朗な選挙の実現を阻害する事前運動にはそれだけの権限と責任において防止に総力を傾注し、違反行為を願います。

②とくに立候補予定者、その他の関係者は公職選挙法に従ってこれを逸脱することを願います。

③県下八十万有権者の良識にうつつたえ、公明選挙の実現のため、いつそその自覚と協力を願います。

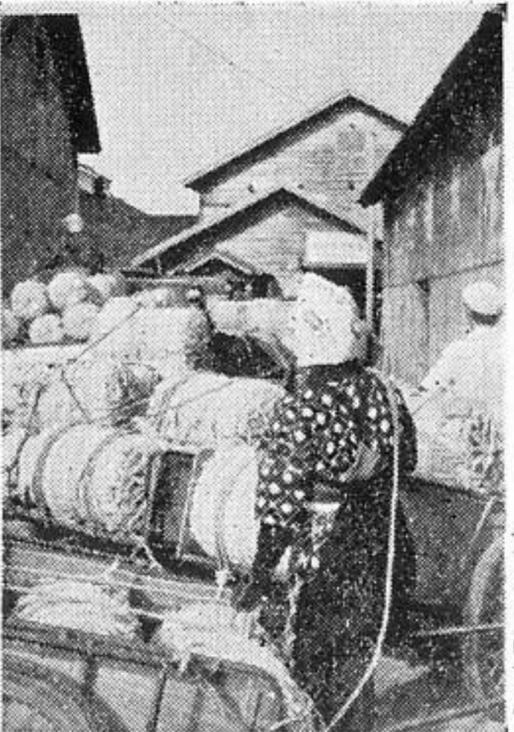
農業振興 特別指導市町村になる

県農業会議の指導でモデル村に

各都道府県農業会議では市町村を指定して農業振興特別指導事業を行ってきたが、本年度から本村もこの特別指導市町村の指定をうけることになった。

この事業は、農業会議が五カ年にわたり経営改善や土地条件整備など、実際の指導と援助をして、農業振興モデル市町村をつくり上げていくねらいのものです、昭和三十年から実施されてきた。

指定をうけた市町村では農業振興推進協議会を組織して推進体制をつくとともに、さらに二つの特別指導部落を選定し、この部落活動の積み上げのかたちで全体の計画遂行をはかっています、という特別な推進方法がとられる。



お米のラッシュアワー

今年のお米つくりは有史以来の豊作といわれ、売渡しも新記録をつくるものと予想されている。穫り入れ、出荷作業も好天にめぐまれて順調にすすんでおり、早場米第二期末の十月十日は早朝からどつと出荷陣がくり出し農業倉庫前は米、まためでうずまいった。

- この特別指導部落の主な事業内容としては
- ①部落農業振興計画の樹立推進
 - ②基礎資料の整備と経営経済調査の実施
 - ③研究協議会、研修会等の開催



国民年金資格取得届の受付中

十一月一日から国民年金の被保険者資格取得届の受付が行われている。

該当者は各世帯毎に世帯主がすすんで届出しなければならぬことになっていたので、部落長から配布された用紙に押印して届出すること。

産米売渡し

一万二千俵を突破

本年産米売渡しは第二期がしめきられた十月十日現在、一万二千俵を突破した。

九月中は天候不順のため第一期総額三百四十俵とふるわなかつたが、今月に入つて天候がもちなおし、全予約量の二一%以上という上々の進捗率をみせはやくも今月末には九〇%以上の売渡しが見込まれるまでになった。

本年産米売渡状況

農協別	第1期	第2期	合計	割合(%)
玉老	99	4.224	4.323	17.6
方央	25	2.480	2.505	24.0
郷計	171	2.872	3.043	23.7
中下	47	2.347	2.394	25.3
合 計	342	11.923	12.265	21.4

(注) 割合は予約量に対してのものである。

などで、営農改善の具体的な面で農業会議の指導をうけ実施していくことになる。

特別指導部落に 葎沢・黒沢を選定

指定をうけた本村ではまず推進

協議会の設置をいそぎ、委員に農業委員、農協長、共済組合長 議会産業経済委員長らを委嘱し 特別指導部落には葎沢(農家戸数一九)黒沢(同一)を選定した。

なお県内で本年度に指定をうけたところは、本村もふくめて八市町である。

全村にわたって 土壌試験実施

本村では県農事試験場の技師を招き土壌調査を実施している。

十日から玉米農協管内を皮切り全村にわたつて行われるが調査による細かい分析結果がでるのは来年にみこまれ、さらに、これをもとにして、それぞれの調査地区で肥料試験も行われるという。

これからは施肥など、この科学的なデータにもとずいて行われることになり、ますます安定した稲づくりができるようになる日もそう遠くない。

【写真は熱心にすゝめられている土壌試験Ⅱ須郷田田圃で】

めだつ 調整不良

食糧事務所ではこれまでの売渡し米を検査して乾燥、米質とも

申分ないが、調整不良がめだち、必らず二度以上米選機にかけて調整には特に念を入れること、出荷にあたっては計画をたて前日まで申込んでおくことの励行を望んでいる。

国・県を動かして

「大」の字の道作りに全力

道路施策中間報告(上)

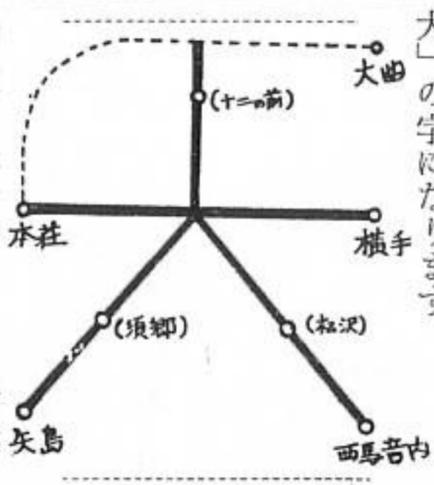


阿部村長

村長として仕事をすすめながらつねに頭から去らないことは道路をよくしたいという事です。

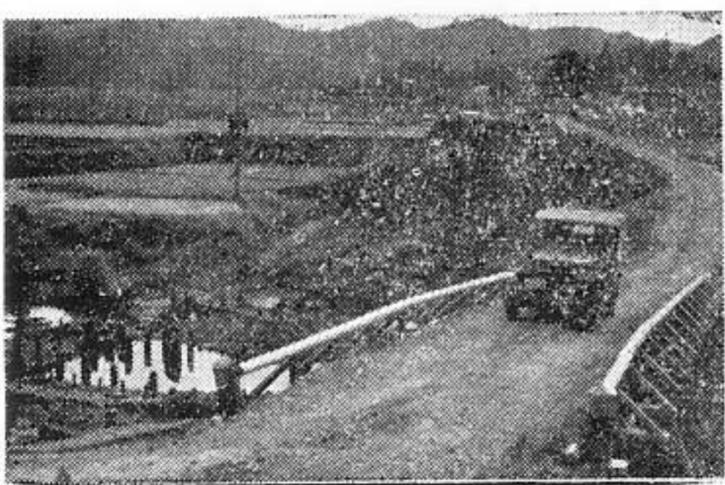
本村の道路整備がおくれ産業経済、教育、文化の伸長に重大な支障を及ぼしている現状を打開していくために村の重点施策にこれを取り上げ努力を傾注してまいっております。

いま国や県を動かして道路施策を進めている大きな路線の略図を書いてみると別掲のとおり「大」の字になります。



「大」の字をいろいろな言葉の上にあてはめてみるとひじょうに力強いものになり、いま成長しつつある本村の将来を暗示しているようで楽しい気持ちにさせたい。

【いまたけなわの高瀬川橋工事】



すが、いかにせん村財政にも限度があることで、年度当初の施政方針にも述べたように国や県の公共事業を積極的にとり入れていこうという考えのもとにこれまであらゆる方途をたどつてまいりました。そしてこれらが次第に実現され、また明るい見とおしが生れてきつつあるので村民のみなさんに中間報告を兼ねてこれまで経過ならびに見とおしなどについて述べ、関係地区の人々はもちろん全村民の一つそうの協力をお願いしたいと思ひます。

えなります。

全区間の路面改修促進

本荘―横手国道

ところで本荘、横手間の国道は本村にとつて大動脈にあたります。各所に路面改修が行われ、今後も継続して全線貫通して改修されるようこれからも手をゆるめず進めていくことはことわるまでもなく、懸案となつていた高瀬川橋永久橋架替工事もい

祝沢・須郷部落に農公電話

祝沢及び須郷部落に農村公衆電話が架設されることになり、測量もすでに完了して年内もしくはおそくとも来年度初めには完成する見こみになつています。

山間僻地の無電話部落の解消をねらいにするこの電話は施設に要する経費もすべて電々公社もちという、本村のような条件のところにはまさに願つたりかなつたりのありがたいもの。

さらにこの電話回線を利用して周辺の日照坂や大吹川、石高部落などでも電話を入れようとする話しいが進んでおり、長い間村の念願であつた無電話部落の解消もあと一息にまでこぎつけた。

営林局との併用林道として再生

村道法内線

またけなわです。スノームセツト、防災工事も着々完成し、雄物川町方面の永久橋工事も進んでおりますのでこれからはどんな災害にもびくともしない交通の確保とスピードアップが得意、物資経済流通も安定し、ますますさかんになつていくことでしょう。

須郷・大吹川の改修工事に近く着手

玉米―矢島県道

次に玉米、矢島を結ぶ県道も矢島町と協力して県に要望し、近い将来全面改修が行われるはずで、とりあえず大吹川から須郷に至るまでの道路改修を重点に働きかけてきました。

県ではこれを取り上げられて測量もすでに行い、実施設計を完了して発注をまつばかりとなつております。いわば県道とは名ばかりで四十年間日のめをみなかつたこの道路がりつぱに生れかわると須郷大吹川部落民の利便はもとより将来は鳥海山観光にも一役果すようになることうけあいです。



いそぐ森林計画の編成調査

来年度から5カ年にわたつて実施される森林計画編成のため、いま県から係員が来村して一連の調査をいそいでいる。これは私有及び公有全体の施業経営計画をたてこれに基づいて実施して森林資源の増大をはかつていこうとするものである。すでに5月と6月には基礎調査が行われ、引続き9月から現在にかけて村内216箇所を抽出して森林資源の実際の材積量と成長量の調査が行われている。【写真はいま行われている森林資源調査】

いま一つ力を入れているのが村道法内線です。法内地区百三十世帯の物資経済がこの道路一本にすがりきつていっていることはいまでもなく、交通、運搬量の日増しの増加によつて荒廢度がつよく対策につねに頭を痛めてまいつたのであります。

たまたま営林局では白ヶ沢国有林の開発を必要としているのでこれと村との併用林道として整備し、これをりつぱに再生させようとの考えのもとに営林局と話しあつております。営林局では十二ノ前から山元までの既設林道を拡巾して大型自動車が行来できるようにしようという構想をもつているので、これと結びつけて蔵を起点に十二ノ前へ至る村道を併用林道としてさん次拡巾整備し橋梁なども補修架替えしていこうとするのであります。さいわい営林局でもひじょうに好意的に受入れ検討してくれておりますし、同時に野田部落入口の丸山橋架替えの援助も願つておりますので何とかこれらを実現にこぎつきたいものと思ひさらにながらばつてまいります。これは将来本荘大曲間の道路に連結するよう延長し、さらに矢島線の全面改修をまつて本荘大曲間と矢島を一本に結ぼうとする遠大な計画の現に一步近づくことにもなるわけです。(以下次号)

黄金の草地化へ大車輪

今年の草地改良計画をみる

いま本村では黄金の草地化をめざし大車輪で改良事業が進められている。

今年では四四・五ヘクタール全体で六七%進む

現在のこの草地改良事業は酪農振興計画によつて三十三年度から実施され、三十七年度まで一〇〇ヘクタール、ほかに小草地(けい畔、畑など)六〇ヘクタール完成を目標にしているが、このうち本年度の事業計画をまとめてみると次のようになる。

事業地区は全部で十三地区、面積は四四・五ヘクタール計画されており、前年度まで十一地区三七ヘクタール完成しているの

あるかというところ、機械延一〇台、人夫は障害物除去、耕土整地、播種施肥あわせて三、六五〇人必要とするし、資材では土壌改良の炭カル三三三トン(一、一〇〇俵)草地用肥料四〇トン、牧草種子代だけでもなんと三七万五千円相当を要する。これらの総事業費は五一五万九千円で一ヘクタール当り一十一万六千円という大きな事業内容である。

十一月定期家畜市場は同月十七日台山馬検場で開設される。市場出場希望者は後日部落長を通じて取まとめを行うが、期日までの申込みがないと出場できないこともあるので必ず申込みをされること。
とくに今回は仔畜検査も同時に行われるので至急仔畜の出生届をされるよう望んでいる。

11月17日家畜市場開設

仔畜検査も同時に

苗木の予納金を至急

今季も昨年同様苗木の一括購入するので、申込者は新しく造林する場合苗木代金の七割、再造林や補植などの場合全額の予納金を至急納付して下さい。
今季中植栽される方は造林個所反別なども同時にお知らせ下さい。
【森林組合】



【写真説明】
(上)縦横に活躍するトラクター
(下)緑のじゆうたんを思わせるみごとな改良草地
Ⅱ法内、奥大台地区

草六〇ヘクタール分に匹敵するし、牧草ののもつ栄養価を考へるともはや想像の及ばないものにさなる。さらに購入飼料一六〇万円(一)

滞納しないで村を伸ばそう

Kさんは「滞納はもうコリゴリ……」と語っています

500万円の壁をつくるもの

本村では現在800万円ほどの滞納をかかえております。そして課税世帯1,540世帯のうち約800世帯が滞納になっております。これは滞納が一口あつても一世帯と計算されておりますが、このうちの240世帯は一応滞納常習と考えてよいでしょう。これがつねに村の事業遂行の阻害となり、いつも変わらない滞納額500万円の大きな「壁」をつくっているのです。

郡内でも最下位の徴税成績

34年度の村税の徴収成績は83%で33年度に比較してほんの少しだけ向上しております。しかし他町村の徴税成績と比較してみると郡内では最下位、秋田県72市町村のうちでも下位から5、6番のところを上下しているというまことに憂うべき成績です。

他の町村が90%以上の徴税成績によつて明るく伸びていくとき、わが村が多額の滞納のために全ての計画がはばまれていくとするならば明るい村づくりもできないし村民にとつても不幸そのものであるといわなければなりません

強行手段も止むなし、との結論

このような滞納のために村民みんながしあわせになれないとするならば村と

してもこれに対する対策を講じなければなりません。いろいろ検討してみましたが、これらの

人々に対して村としても再々督促をお願いもしてきたのであるからこれ以上待つことはできない、最後の手段以外に途なしとの結論に到達したので、由利財務事務所と打合せ強力に実施することにしました。すでに滞納者の名簿も提出し、これまで差押えしてあるもので完納してないものに対しては公売処分いたします。

この出来秋に必らず滞納一掃

今年も昨年にもまして豊作で、滞納一掃にまたとない好機会です。明日といわず今すぐ納税の計画をたて、あなたの生活設計を正常なレールの上のせて下さい。

昨年のごとですが、4年分の滞納があつたKさんは苦しい中をがんばつて5万円ばかり完納した当時のことを述懐して「もう滞納はコリゴリです」といながら今年も納期限内に確実に納入しております。Kさんの顔はいつも明るく、すでに健全な生活設計をおくつて

いることを物語っております。多額の滞納を完納することはたしかにそうとうの努力が必要で苦しいにはちがいないでしょうが、その努力と苦しみの中から健全な生活と明るく伸びる村の姿をみることができるとは思われます。

【税務係】



秋の日ざし

おだやかな日ざしにつつまれて
花も人も……………
あまねく天の恵みに感謝しながら
平和な呼吸をつづけています。
ふかまりゆく秋の午さりです。

国保よりお願い
 保被保険者の資格取得喪失届(出生・死亡・転出・転入)は保険証を添えて十日以内に必ず国保係へ

寄生虫陽性率八〇%以上 今夏の保健活動の報告から

この八月、各部落を訪問して保健活動を行った東北大学医学生たちから寄生虫検査の結果が報告されてきた。

今年学生たちが二班にわかれて活動したので昨年よりも範囲が大きく智者鶴、向田、葎沢、黒淵、田代、松柴、宿、新処、土場沢、高屋、島、宮ノ前の十二部落に及び一般健康相談や血圧測定などと同時にこの寄生虫

検査も行われたのである。

陽性率は高くても三〇%が普通

この報告によると寄生虫陽性者(回虫、十二指腸虫その他何らかの寄生虫をもっているもの)が全体の八〇・五%、そのうち回虫は五四・九%、十二指腸虫三五・一%と驚くほどの高率が示されている。

戦事中、後の衛生状態では日本

人全体の八、九割が寄生虫を持つていた事実が現在では駆虫などが進み一〇〜二〇%が普通であり、せいぜい高くて三〇%くらいとされているからこれより何倍もの高率であるこの事実から目をそらして安閑としてはいられないことになる。

原因不明の病気や農夫症などに一役

さらに報告の中で「寄生虫の直接の病因作用が著名でないといつても現に子供の原因不明の腹痛、頭痛、発熱や今問題になっている農夫症のめまい、頭痛、腰痛、肩こり、冷え、夜尿、息切れなどの愁訴に全く関連性がないといえない。とくに十二指腸虫感染率が高いことはこれらに一役買っていることに間違いない」といつており、直接あるいは間接に我々の体をむしばみそして生活を暗くしているのである。

村全体の根気よい駆虫対策が必要

また駆虫の問題にもふれて、昨年宿部落では陽性率八七・五%であったがその後二回駆虫を行

つたため今年には六七・六%とだいぶ低下している。しかしいぜん五〇%以上であり、この場合年四、五回の駆虫が必要であり五〇%以下に低下した場合でも年二、三回の駆虫が必要であるといっている。

このように高い陽性率のため一部の人が駆虫を行つても周囲からの再感染は十分考えられることとであり、また通り一辺の対策では効果もあまり期待できないのでこれからはもつと根気よく村全体が協力していかなければならないことになる。

ばーん

- を△** 就職協力委員は各地域に
△△ おいて季節労務や就職などについてお世話して下さい。今年は冬眠生活をして下さい。
- △△** 活用して下さい。
- △△** 【蔵】佐藤次郎・阿部寅静阿部マサエ・太田兵介・阿部仁志【老方】佐藤儀平・小松周一・小松幸子・長沢レイ子・小松仁一・小野作美・志村金之助【法内】遠藤徳太郎・遠藤猪一郎・阿部ムツノ阿部重助・千葉長吉【宿】佐々木精一郎・梅津栄一・佐々木テル大庭福三郎・遠藤寅蔵【館合】佐藤カツ・中西トシ・小松与惣雄畑山良一・小松藤四郎【田代】青木キヨ・佐藤正一・斎藤正志長谷山鉄治・横山又十郎【袖山】島山ミツヨ・武田繁政・鈴木亮一【学校】佐藤松之助・今野良吉



募金目標額一五万一千円

いま赤い羽根共同募金が行われています。
 〃助けあつてみんなを幸福にする赤い羽根〃目標額達成にご協力下さい。

米代金は貯蓄して……

米代金は一年とおして使う大切なもの、
 まず貯蓄して生活を合理化し
 そしてきまりよく支出していきましよう。



新生活はドブクロ廃止から

ドブクロは体のため国のため害毒をながします。
 〃晩しやくは清酒を飲んでネお父さん〃明るい生活はまずドブクロのない生活から